

## これからの時代に求められる宮津市の学校・学校施設等の在り方について

## 提言書の概要

諮問機関 宮津市学校施設等の在り方検討委員会 R4.8.9-R4.12.17  
委員長 竺<sup>ちく</sup> 沙<sup>さ</sup> 知<sup>とも</sup> 章<sup>あき</sup> (京都教育大学副学長)

## 1 諮問の背景

社会のあり方が劇的に変わる「予測困難な時代」が到来するなか、教育現場においては、主体的・対話的で協働的な学びの実現により「持続可能な社会の創り手」となる子どもたちを育てることが求められている。加えて、今後さらに学校等の小規模化が見込まれるなか、それによって生じる課題への対応や持続可能な質の高い教育の推進に向けて、10年、20年先を見据えた、これからの時代に求められる宮津市の教育について検討する必要がある。

## 2 諮問事項

これからの時代に求められる宮津市の学校・学校施設等の在り方について

- (1) 求められる資質や能力を育成するために必要な教育環境
- (2) 望ましい幼児教育の在り方
- (3) 望ましい教育環境の実現に向けた学校施設等の配置

## 3 提言の概要

これからの時代に求められる宮津市の学校・学校施設等の在り方について

## (1) 宮津市の目指すべき教育

## ① 多様性を認め合い、自立心を高め合う豊かな学び

学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が、集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力、表現力、判断力、問題解決能力等を育み、社会性や規範意識を身に付けさせることを求める。

いろいろな価値観や背景をもつ人々の集団の中で、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題、経験したことのない課題を解決する能力「コミュニケーション能力」を培い、非認知能力の育成・向上を図る学びを期待する。

このような教育を進めるうえで大切にしたい視点を次のとおり提案する。

- 学校・家庭・地域のつながり、人との関わりを大切にし、安心できる、認められる場所としての教育の場の実現を図ること。
- 教育活動の中に協働的な学びと教科横断的な探究活動を取り入れること。
- 体験・経験を通じた豊かな学びを充実させるとともに、ICTを活用した新たな

な学びの場を創出すること。

- 学校・家庭・地域が協働で教育に取り組む仕組みづくりを推進し、地域力の強化及び地域の活性化につなげること。
- 教員や保育士が共に学び合える場を創出すること。

## ② 「生きる力」の基礎を育む幼児教育・保育

幼児期は、身体感覚を伴う多様な活動を経験することによって、生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を培い、また、小学校以降における教科の内容等について実感を伴って深く理解できることにつながる「学びの芽生え」を育む重要な時期であり、幼児教育・保育は大変重要である。

今後さらなる子どもの減少が見込まれる中、子育て支援施策の一環として、例えば認定こども園化など、保護者の就労等の有無に関わらず、教育と保育を一体的に提供できる施設として、機能の充実を検討することが必要である。

## ③ ふるさとみやづの魅力を活かした学び

宮津市がこれまで取り組んできた「ふるさとみやづ学」のさらなる充実を図るとともに、様々な教育活動の中に、宮津の豊かな自然環境や地域資源を最大限に活用し、体験型の学習を多く取り入れ、子ども達が五感を通して学び、深める取り組みを求める。

## (2) 望ましい教育環境の実現に向けて

小中学校・園等については、ある程度の規模が必要であると考えられ、きわめて小規模の場合は、保護者や地域の理解、支援のもと、ある程度の規模が確保できるよう統合を検討していくことが必要である。

学校・園等の再編・統合にあたっては、子ども達の豊かな学びを保障することを第一義とし、保護者や地域住民、学校関係者等が参画する懇談会等を設置し、再編・統廃合に向けた検討を行うこと。小規模であるがゆえに困難であった教育活動の充実や様々な文化・スポーツに親しむ機会の充実などが図られるように努めること。また、現在の教育的課題に対応する新たな機能を付加した「新しい学校・園等」とすること。

また、学校生活の基盤となるトイレや空調、耐震化など施設整備については、安全・快適な学校施設の確保を強く要望する。

これからの時代に生きる子どもたちのために、児童生徒の教育環境・条件の改善の観点を中心に据え、教育の果たすべき役割をより良く実現し、子ども達に時代を担うしっかりとした力を育成するために、本提言を契機として、学校・家庭・地域・行政が一体となって、より良い教育の実現に取り組まれることを期待する。

## 4 検討の経過

### (1) 宮津市学校施設等の在り方検討委員会委員名簿

(敬称略)

氏名	所属団体等	備考
竺 沙 知 章	京都教育大学 副学長 (教授)	学識経験者
川 勝 健 志	京都府立大学 副学長 (教授)	学識経験者
岩 田 光 雄	宮津市自治連合協議会	地域
小 田 原 道 子	宮津市民生児童委員協議会	地域
古 澤 武 夫	宮津市PTA協議会 (中学校)	小中学校の保護者
廣 野 康 昭	宮津市PTA協議会 (小学校)	小中学校の保護者
中 村 佐 知 子	保護者会 (幼稚園)	就学前児童の保護者
吉 田 真 与	公立保育所保護者会	就学前児童の保護者
井 上 裕 介	宮津市立学校教職員	学校関係者
杉 本 学	宮津市立学校教職員	学校関係者
橋 本 陽 子	宮津市公立保育所所長会	就学前施設関係者
伊 藤 正	宮津市教育委員会教育長職務代理	行政機関

### (2) 調査・審議の経過

R4. 8. 9 第1回検討委員会

R4. 8.22 教育懇話会① (宮津会場)

R4. 9. 9 教育懇話会② (府中会場)

※子育て世代の生の声を積極的に聴取し反映させるため、ワークショップ形式の「教育懇話会」を開催。高校生がビデオメッセージで参加。

R4. 9.29 第2回検討委員会

R4.10.24 第3回検討委員会 (1)

R4.10.29 第3回検討委員会 (2)

※検討を深めるため、2回に分けて委員全員の出席を求める。

R4.11.16-23 学校教育・幼児教育に関するアンケートの実施

R4.11.29 第4回検討委員会

R4.12.17 提言書の手交 (委員長⇒市長)